

事務事業名		さんりく陶芸工房施設管理事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 総合戦略登載事業	
政策体系	政策名	03 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間	
	施策名	14 生涯学習の推進			
	基本事業名	01 学習環境の充実		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成11 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
根拠法令		大船渡市さんりく陶芸工房設置管理に関する条例、同条例施行規則		予算科目 会計 款 項 目 事業 01 10 05 01 12 事務事業区分 A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(A～D以外)	
所属	部課名	教育委員会事務局生涯学習課		全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0	
	課長名	江刺雄輝			
	係名	中央公民館	電話 26-3166		
	担当者	木川田舞	内線 432		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) さんりく陶芸工房の施設維持管理を行う。 陶芸設備を熟知した団体の協力を得ながら運営している。 施設の使用申請の受付、及び使用許可 事業費は管理謝金、電気代や灯油代等として支出される。					

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称 単位 ア 利用件数(=日数) 件 イ 利用者延べ人数 人 ウ	
前年度実績(前年度に行った主な活動) ・利用申請の受付、使用許可 ・施設の維持管理 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度と同じ		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 名称 単位 カ 人口 人 キ 陶芸工房床面積 m ² ク	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 名称 単位 サ 利用したことのある市民の比率 % シ 施設利用上の不具合発生件数 件 ス 施設利用上の不具合対応率 %	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		施設を適切に管理し、良好な状態で利用に供する。	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		学習活動に適した環境を整えられる。	

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(目標)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)
投入量	事業費	財源内訳	単位	千 円					
			千 円						
			千 円						
			千 円						
			千 円	50	36	36	36	36	36
			千 円	50	36	36	36	36	36
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時 間	10	10	10	10	10	10
		人件費計 (B)	千 円	40	40	40	40	40	40
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	90	76	76	76	76	76
⑤活動指標	ア	件	34	35	35	35	35	35	
	イ	人	347	309	310	310	310	310	
	ウ								
⑥対象指標	カ	人	38167	37633	37633	37633	37633	37633	
	キ	m ²	73.82	73.82	73.82	73.82	73.82	73.82	
	ク								
⑦成果指標	サ	%	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	
	シ	件	0	0	0	0	0	0	
	ス	%	-	-	-	-	-	-	

事務事業ID	1055	事務事業名	さんりく陶芸工房施設管理事業
--------	------	-------	----------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
平成11年度に陶芸サークルの要望を受け、甫嶺小学校の敷地の一部を用途変更して建物及び陶芸設備を整備した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
特になし

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
特になし

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	施設を適切に管理することにより、市民が安全で快適に利用できる。
	② 公共関与の妥当性	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	利用者が1団体に限定されており、今後も市の社会教育施設として管理することが望ましいか等の検討が必要である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	対象・意図ともに適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	施設を適切に維持管理できている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	適切に維持管理がなされず、利用者の安全を確保できなくなる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	必要最低限の事業費であり、これ以上の削減は難しい。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど)	陶芸に関わる知識、技術及び設備を熟知した団体に協力を依頼し運営しており、削減余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	使用料の徴収や減免について規定されており、公平・公正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果																						
1 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止		左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき 施設を払い下げる場合は、利用団体と綿密に打合せし理解を得る必要がある。		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持低下</th> <td>●</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th></th> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持低下	●		×		低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持低下	●		×																				
	低下		×	×																				

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止	事業の効率性、公平性を踏まえた維持運営のあり方が求められる。